

令和2年 新年祝賀会

1月17日(金)、KKRホテル東京において日漢協新年祝賀会が開催された。
まず初めに、加藤照和会長が主催者を代表して挨拶を行った。

令和の時代においても心身全体のバランスをととのえ、
自然治癒力を高める漢方治療の必要性はますます高まると考えている。
原料生薬の品質・価格・量における安定調達を実現し、
引き続き高品質な漢方薬の安定供給に尽力していくと語った。
また、コンプライアンス遵守については、会員会社に周知徹底し、
体制の整備につとめて国民医療に貢献していくと述べた。



【加藤照和 会長】

続いて来賓を代表して4名の方よりご祝辞をいただいた。

厚生労働大臣の加藤勝信先生は、
「我が国の医療に必要不可欠な漢方製剤の有用性が改めて認識され、
これから高齢化社会が進む中で健康寿命の延伸にもつながるもの
と確信している。」と話された。



【加藤勝信 厚労大臣】

日本医師会・横倉義武会長は、
 「漢方薬や生薬は歴史に支えられた英知があり、
 現代医療においても国民に貢献している。
 また、医療に必要な薬は保険で適用すべきであり、
 そのためにも漢方薬や生薬の有用性を世に出していかなければならない。」
 と話され、その役割の1つとして、
 『国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2019』をあげた。



【横倉義武 会長】



日本東洋医学会・伊藤隆会長は、
 「我が国の保険診療は漢方薬と西洋薬を同じフィールドの中で活用する
 ことができ、他国にはないこのやり方は世界に発信できる。
 ただ、漢方の専門医はまだ少なく、どう広めるかが課題である。」と述べられ、
 6月に開催される第71回日本東洋医学会学術総会は
 医学教育をテーマに行われることを紹介した。

【伊藤隆 会長】

日本薬剤師会・山本信夫会長は、
 「漢方薬の源は中国だが、我が国に伝来以来さまざまな変化を経て、
 医療現場やOTC薬として広く使われている。
 そして、超高齢化社会を目前にして多剤投与やフレイル対策など
 漢方製剤への期待は大きいものになっている。」と話された。



【山本信夫 会長】

乾杯の発声を務めた中嶋洋一副会長は、「子年の2020年は繁栄の年であり、十干を加えると“庚子”の年である。庚は“金の陽”、子は“水の陽”を示し、陰陽五行説では“金と水は相生関係”である。本年も助け合いながら共に発展していきたい。」と豊富を述べた。



【中嶋洋一 副会長】



【武見敬三 先生】

この間も、出席された参議院議員のお二人からご祝辞をいただいた。武見敬三先生からは、「しっかりと保険収載を維持し、国民の生活に密着した形で漢方がさらに大きく発展するよう支援する。」とのエールをいただいた。

藤井基之先生からは、「昨年薬機法が変わったが、産業界は声を出さなすぎるのもっと思いを伝えるべきである。産業界の意見をぶつけてほしい。」との激励をいただいた。



【藤井基之 先生】

最後に、中締めめの鈴木一平副会長は、「漢方業界が抱えているさまざまな課題を1つずつ解決していき、安全で安心の漢方製剤・生薬・生薬製剤を安定供給すること、また安定供給のための環境を整備することが日漢協の役割である。」と締めくくった。

多くの来賓の方々が参加され、終始和やかな雰囲気の中、盛況のうちに閉会となった。



【鈴木一平 副会長】